

平成26年度 吉野ヶ里町立東脊振中学校 学校評価計画

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
自主的に学び合う生徒の育成	① ICT利活用による魅力ある授業実践と学習内容の定着により学力の向上を図る。 ② 生徒理解の促進による開発的な生徒指導の充実を図り、「出番・承認・称賛」により自己肯定感を高める。 ③ 小中連携教育の積極的な実践・研究の推進に努める。 ④ 生徒の個性と能力を伸ばす部活動の推進に努める。

3 目標・評価

① ICT利活用と学力向上

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○教職員の資質向上	言語活動の充実に向けた指導・支援を行うことができたか。	・生徒が図や文章をかいて説明したり、発表という形で説明したりする活動を位置付けた単元（授業）を構想し、実践する。	・説明のモデルを生徒に示したり、ワークシートを工夫したりする。 ・説明がうまくできない生徒に対し、どうすればできるようになるかを具体的に助言する。
教育活動	●ICT利活用教育の推進	電子黒板の利用率は上がったか。	・電子黒板等を利用した授業づくりに努め、稼働率65%を上回る。 ・目的に応じた機器の利用について研究を行う。	・電子黒板の操作・活用について、全職員で研修会を実施する。 ・希望者による小規模の研修会を実施し、活用力の向上を図る。 ・公開授業等の学習指導案作成時から、機器を利用する目的を明確にして、効果的な利用となるように検証・改善を行う。
教育活動	●学力向上	家庭学習習慣の定着率は高まったか。	・全校で取り組んでいる自学ノートの提出率が90%以上になるようにする。 ・家庭学習時間1時間以上が80%以上になるようにする。 ・学習内容の定着度の向上を図る。 ・学習状況調査においては、各学年・各教科の向上を目指す。	・自学学習の方法や課題の選び方について教え、実施状況を点検し、家庭学習の習慣化を図っていく。 ・定着度の確認を行い、不十分な場合は反復学習や補充指導等により、定着を図る。 ・PDCAのサイクルを機能させて、検証・改善に努めていく。
教育活動	●学力向上	朝学習、家庭学習の取組で基礎学力は身に付いたか。	・朝学習で、学習の基礎・基本の定着を図る。 ・学習状況調査において県平均以上を目指す。	・学年ごとに朝学習の課題を準備し、計画・実施する。 ・自主学習の進め方について指導し、課題を与えて実施状況を点検しながら家庭学習の習慣化を図る。 ・反復学習や補充指導等により、学習の基礎・基本の定着を図る。
教育活動	●学力向上	読書量が増え、読書の幅は広がったか。	・学年、教科との連携を図る。 ・図書資料の充実と環境づくりに努める。 ・1人1か月に3冊貸出、年間8,000冊の貸出をする。	・学年・教科と連携し、図書に関する情報発信の機会を増やす。 ・生徒が親しみやすく、利用しやすい環境づくりに努める。 ・委員会と協力し、定期的なイベントを開催する。

② 生徒指導の充実

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●いじめの問題への対応	いじめの早期発見・早期対応に向けた体制づくりができたか。	・毎月、生活アンケートを実施する。 ・学校生活が楽しいと回答する生徒が70%以上になるようにする。	・毎月、生活アンケートを実施し、早期発見・早期対応に努める。 ・生徒指導委員会に教育相談担当を加え、生徒の相談に迅速に対応できる体制にする。 ・自己肯定感を高める活動を多く取り入れていく。
教育活動	○生徒指導	開発的な生徒指導の実践はできたか。	・出番・承認・称賛により自己肯定感を高める。 ・時間、清掃、挨拶を励行させる。 ・具体的な行動目標の提示する。	・きめ細やかな指導を展開することにより、受容的な雰囲気の中で生徒が充実感をもって生活ができる環境を醸成する。 ・生徒にわかりやすい行動目標を提示し、できたことへの称賛を行い、生徒の意欲を喚起する。

教育活動	○教育相談	教育相談体制はつくれたか。	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に教育相談部会を実施する。 支援計画や日々の記録を活用し、支援の必要な生徒への共通理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> スクールカウンセラーを交えた教育相談部会を実施し、相談体制を整える。 日々の記録を月ごとにまとめ、各学年の教育相談担当でチェックを行う。
教育活動	●心の教育	道徳授業の充実を図ることができたか。	<ul style="list-style-type: none"> 授業参観日に道徳の授業を実施し、保護者とともに人権や命を考える機会をもつ。 生徒の心を育てるための道徳授業の展開を工夫する。 資料の収集と教材研究の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ふれあい道徳において、人権や命を主題とする授業を実践し、保護者とともに人間としての生き方を考えさせる。 教職員が資料や教材を共有できるように、使用した資料や教材を共有サーバーに蓄積する。
教育活動	●心の教育	生徒の人権意識は向上したか。	<ul style="list-style-type: none"> 教育活動の全領域を通じて、基本的人権を尊重する態度を育てる。 全職員が人権・同和教育の重要性を認識し、研修会に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人への理解と個性の伸長を念頭におき、教育の様々な場面で声掛けをはじめ対応していく。 人権啓発につながる平和集会や人権集会などの行事、作文や標語なども生徒会や各部委員会など生徒自らが取り組む活動になるようにする。 人を大切に思いやる雰囲気づくりのできる授業を行う。

③ 小中連携教育の推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○小中連携教育	小学校との授業交流はできたか。	<ul style="list-style-type: none"> 全職員が東脊振小の授業を参観する。 	<ul style="list-style-type: none"> 小中の小中連携教育担当が連絡を密にして、授業がスムーズに行えるようにコーディネートする。 教科ごとの打合せの時間を設定する。
教育活動	○学び合う活動	学び合う活動の充実を図ることができたか。	<ul style="list-style-type: none"> 小中間で情報交換を行い、共通理解するための組織作りや手立てを工夫する。 発問の仕方や、課題の提示の仕方を工夫する。 校内研究や校外の研修を通して、学び合う活動のマニュアルや手引き等を作成し、指導力の向上を図る。 生徒の変容や、取組の成果を客観的に見るための調査を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 小中で相互に授業公開をして、学び合う活動のスキルを高めるように授業研究を充実する。 小中での連絡会をもち、情報交換や合同の活動を積極的に行う。 校内研究の充実を図り、各教科での取組状況や活動の成果・反省などの情報を交換する。 教育センター講座や他校の研究発表会等に参加する。 生徒の意識調査を行い、学び合う活動についての生徒の意見や意識を調査する。

④ 健康と体力、適切な部活動の推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●健康・体づくり	生徒の基礎体力は向上したか。	<ul style="list-style-type: none"> 保健体育の授業、部活動、学校行事や生徒会活動で基礎体力向上に関する取組を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の体育の授業や部活動に積極的に参加させ、体力向上のためのメニューを行わせる。 行事や生徒会活動で生徒が積極的に体力向上を行えるような取組を行う。
教育活動	○部活動の推進	適切な部活動運営ができたか。	<ul style="list-style-type: none"> 部活動運営計画を実践する。 部活動終了時刻、下校時刻を守らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動顧問者会議を開催する。 全職員の共通理解実践できる指導体制を作る。
教育活動	○安全指導	生徒の安全意識を高めることができたか。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の交通事故ゼロをめざす。 生徒のヘルメット未着用などの違反ゼロをめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全教室を実施する。 避難訓練を2回実施する。
教育活動	○保健指導	熱中症や感染症に対する理解を深め、予防することができたか。	<ul style="list-style-type: none"> 保健体育の授業、部活動、学活の時間を通して、病気の予防に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健の授業や部活動時に、熱中症や感染症について意識させるようにし、学活の時間には資料を提供する。

●は共通評価項目、○は独自評価項目